

環境・技術存在論分野

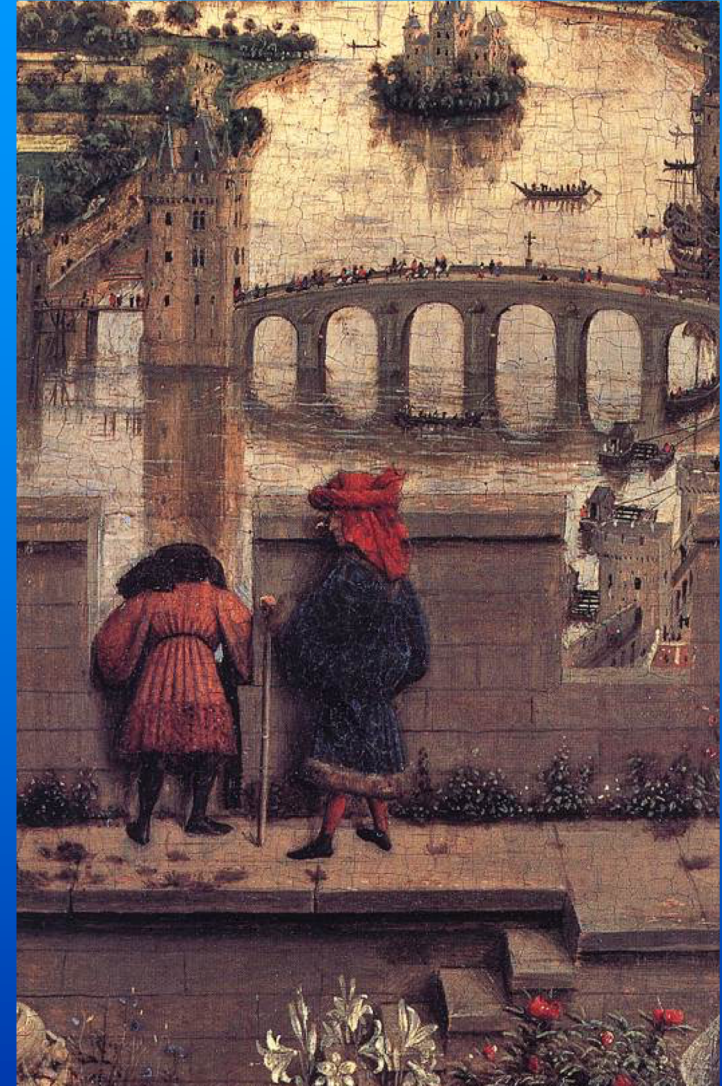
Ontology of Environment and
Technology

分野の特色

(Outline)

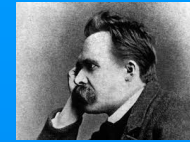
誰もが環境の中にしか存在できないという意味で、わたしたちは環境存在である。だが、それはいったいどのような「環境」なのだろうか？そしてその環境と「関係する」とはどのようなことなのだろうか？

データを解析するのは、哲学的に見ればすべて「認識論(epistemology)」に分類できるが、「存在論」は、例えば「データとはそもそも何か？」と問うメタ領域である。「技術とはそもそも何か？」「自然環境とは人間にとって何か？」という問いを中心に展開される分野が環境・技術存在論分野である。



環境存在論

(Background)

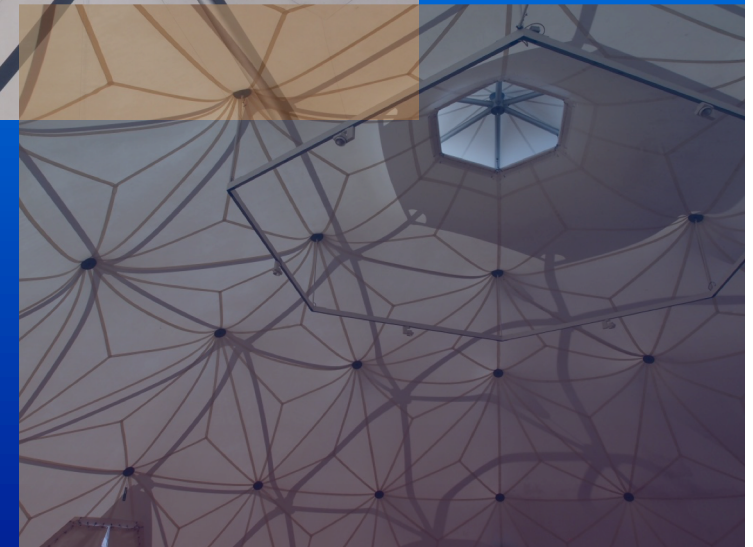


1) 近代ヨーロッパ思想は、自然から脱落し疎外された存在としての人間を発見した。

スピノザ、ルソ、カント、ニーチェ、フロイトなどなどの思想を辿ってみよう。

2) 環境と人間を媒介するものは何か？

環境から人間は「排除」されている。だとしたら、環境と人間はどうやって「関係」したらいいのか？ 例えば、大川と橋上の人間はどう「関係」しているのだろうか？ 橋を技術として考えると、大気・水・都市の構造が見えてこないだろうか。



文系知を持つ科学ジャーナリストが社会的に必要であること。

進行中の研究課題 (Research questions)

人文科学研究所との共同

- 1) 人間と環境を媒介する技術の代表として都市デザインならびに建築に人文学的アプローチを行うプロジェクト。
- 2) 現代技術に対して人が感じる不安と憂鬱は、人間と技術・環境の「データ」の意味を、1970年代の巨大技術研究論文の統計解析から解き明かす科学史プロジェクト。
- 3) 京都の環境哲学・進化論・生態史観などの歴史で特徴的な「場」の思想史プロジェクト。



・ 教員名：佐藤淳二 Junji SATO

